

アラメ群落の退行の現状とその原因の解明

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-11-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 村岡, 大祐
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012375

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



アラメ群落の退行の現状とその原因の解明

海区水産業研究部

研究の背景・目的

1. 褐藻アラメ群落（藻場）は魚介類の産卵・成育の場であると共に、ウニ・アワビ類への餌料供給源、炭素や栄養塩吸収による環境保全等、漁業生産に重要な役割
2. 近年、多くの海域でアラメ群落が消滅し、アラメ群落の変動とその原因解明が緊急の課題

研究成果

1. 牡鹿半島実験区のアラメ群落は、1999年から2年間で11m岸側に退行（図1）
2. 実験区にはキタムラサキウニが多数生息しており、その生物量はアラメ群落下限付近で特に高かった（図2）ため、アラメ群落の退行は、キタムラサキウニの高い摂食圧によるアラメ幼体の生残阻害に起因と推察

波及効果

1. アラメとウニの競争関係の解明
2. アラメ群落維持管理の方法論の提供

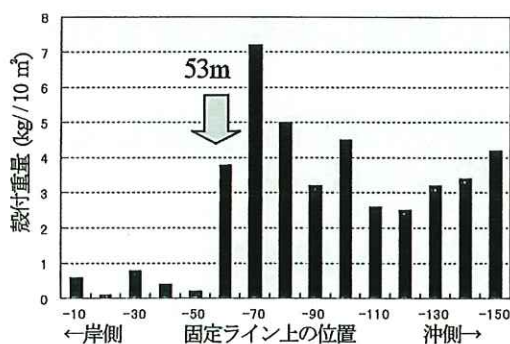


図2. 2001年10月調査時の固定ライン位置別キタムラサキウニ重量分布と、アラメ成体の下限位置（矢印；53m地点）

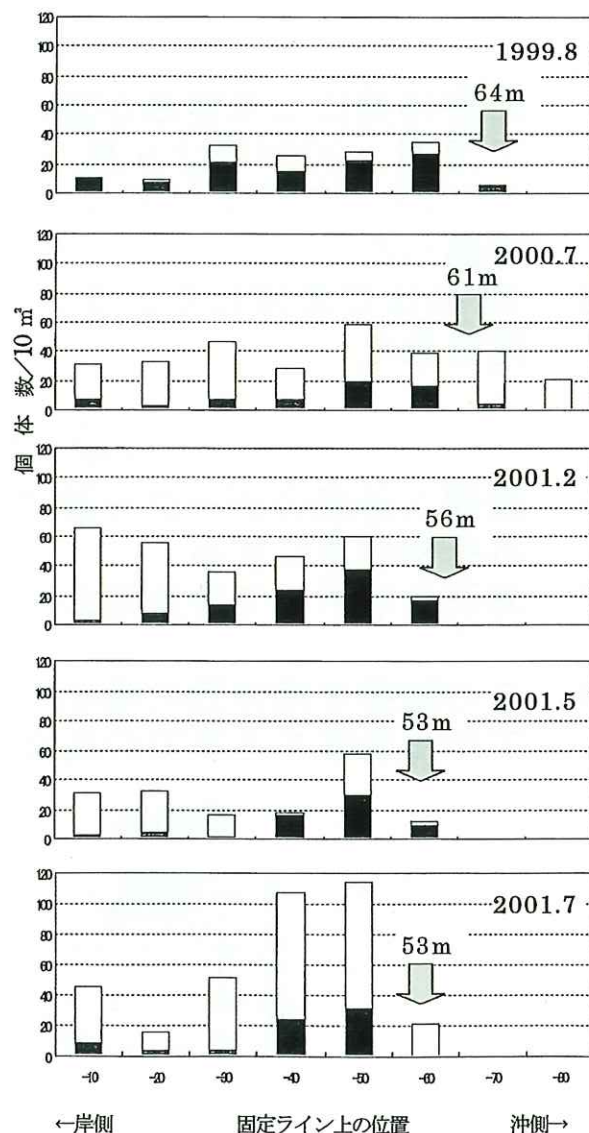


図1. 固定ライン位置別のアラメ成体（■）および幼体（□）個体数と、成体の下限位置（矢印）